

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200552		
法人名	株式会社KUNPUケア		
事業所名	グループホームみどりの家下の町		
所在地	倉敷市児島下の町7丁目1-39		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 18 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様ご家族とのコミュニケーションを大切にして、ともに支え合う関係づくりに努めています。食事は3食とも手作りで提供し、新鮮な素材を使用しているため、大変好評です。また、医療面においても母体が病院のため安心です。利用者様の体調変化があれば必要に応じて、協力医と連携し、安心安全な認知症ケアを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=3390200552-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 1 月 25 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「徒や疎か」という言葉がピッタリと当てはまる施設である。「徒」とは、まごころがない、はかない、無駄である。それを疎かにしない。管理者二人は、前回の評価で少し異臭がするのではと指摘を真摯に受け止め、「いい加減に扱ってはいけない」、「適当に済ませてはいけない」と、直ぐに、全職員と改善しようと様々に駆使した。また、職員は、「常に笑顔で、みんなに優しく」という理念に合わせて、「決して疎かにしない」と、日々誠実さを貫き、丁寧な介護に促している。利用者の夜間のパーソナルな時間には、心を開き、穏やかに多くを語れるので、本音も出やすくなっていることや、毎日過ごしている利用者が、始めて入所した気持ちで、毎日何度も「よろしくお願ひします」の言葉に職員も同調して、「はじめまして」と言葉を交わし、「毎日がスペシャル」な場を作っている。和やかな集いが一体化した施設だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に職員が目にする事ができるよう、理念を掲示している。また、職員・利用者様が常に優しく接することが出来るように、会議などを行い共有している。	玄関とフロアに法人の理念を掲げて、毎月のフロア会議で周知している。特に、この1年間でホームの中を無臭にしようという取り組みを全員で行い、実現させたことは大きな成果で、まさに理念通りの「笑顔とやさしさ」を更に磨いた結果で自信となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職場体験の受け入れや地域のボランティアの紙芝居の訪問・自治会講座への参加・秋祭りを通じて地域との結びつきを深めている。	毎日、八百屋や魚屋が、旬の食材を事業所まで運んでくださるので、利用者は、職員と商品選びをすることで、地域や馴染みの人達との付き合いを続けている。また通院の時間が絶好のドライブで行き帰りに、窓越しにさくらの花見や風景を目に焼き付けることも大切にしている時間である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや地域の役員と連絡を密にして地域支援についても検討していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に会議を開催している。内容として、事業運営状況の報告・地域の状況や他施設との情報共有を行いながらサービスの向上に努めている。	偶数月に報告文章を郵送するやり方にもすっかり慣れ、メンバーとは年間を通じて電話のやり取りもある。特に高齢者支援センターの方からは、地域の現状を情報提供して頂ける良い機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターや市職員の方も参加して頂き、連絡・報告を行っています。	窓口は管理者とホーム長の2人で主に電話でやり取りをしている。市町村の担当者も同じ顔ぶれであることから、何でも気軽に相談できる関係が構築され、新しい情報は遠慮なしに伝えて頂ける関係が続けられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で研修を行い、職員全員が身体拘束について正しく理解し、身体拘束を行わないようにケアに取り組んでいる。	今年度は、新人2名の職員が入社したということもあり、大いに気が高まり、職員みんなで原点回帰をしながら、身体拘束をしない原則論(身体拘束をせずに行うケア3つの原則と5つの基本ケア)を学び合ってきた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を行い、職員全員に正しく理解してもらおう。言葉の虐待もないように職員同士が互いに注意をし合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修に参加し、必要のある関係者とは相談できる体制を作る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書をもって、利用者・家族には丁寧に時間をかけて説明し、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に投書箱を設置している。家族の面会や運営推進会議を利用して意見を求めている。	離れた家族と縁が遠くならない感覚を得るように、入居に至るまでの間、家族がホームの取り組みについて理解して頂いている。日々の暮らしの不安感を露わにした利用者に対して、家族へ電話をかけ、和やかな雰囲気醸したり、差し入れが届いたりして、ふれあいの大切さを提供している。	内部の事務処理を円滑にして、デジタル化することで利用者と家族に提供してはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議にて意見や要望を聞いている。定期的に個人面談を行う機会も設けている。	毎年1回、ホーム長との面談の他は、普段から管理者が、職員の機微な様子を察知して、言葉をかけたり耳を傾けたりすることから、風通しの良い職場環境が構築されている。そんなホーム内の風土が、誰もが思っている以上に伝え合っている。	外部の方との縁も、デジタル化してはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のため、法人自体が学校を運営し、各自向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内研修を開催し、外部研修についても多くの職員が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加し、職員同士で意見交換や交流を図っている。地域での勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学をして頂き、生活の様子・精神面での不安について把握する。サービス開始時には見守りを強化し、1つ1つ説明をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との情報共有を行い、要望や不安について細かく聞き取り、入居後の様子についても連携を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に話を伺い、事業所だけではなく法人全体を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に作業をしながら、自然と日常会話を交わして関係を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月書類送付時に日頃の様子を記入して郵送している。また、面会時や電話連絡時にも健康状態などをお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族と相談して支援に努めている。以前住まれていた近所の友人が面会に来られる。	建物全体が、平屋だということを生かして、居室から窓越しの面会を支援していることから、面会者も頻繁に来所されている。八百屋や魚屋などの専門業者の方の往来が毎日あるので、馴染みは深まるばかりで、挨拶だけにとどまらないご縁が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と机を同じにするなど、会話ができるように環境を作っている。体操・ゲーム・作業を一緒にを行い、関わり合いを深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族より生活や制度についての相談があれば、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から把握している。困難な場合は、家族から情報提供をして頂き、利用者様本位の意向に努めている。	把握できる方とそうでない方に共通して生活リズムをよく把握することで、必要に応じた先回りケアが可能となっている。入浴タイムや夜勤の時などパーソナルに関わる時間は、利用者の本音も出やすく、普段埃っぽい方でも次第に心を開かれて穏やかになったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの生活の様子を尋ねたり、以前のサービス事業所の人に情報提供を依頼し、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを理解し、行動や動作などを記録し、本人の状態を申し送りなどで全員に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、フロア会議の中で利用者全員について話し合いを行っている。各担当者として計画作成担当者、本人、家族の意見を取り入れて、計画を作成している。	入居時に作ったケアプランは、2ヶ月後に見直し、それ以降は概ね半年ごとで、状態に応じて行なっている。モニタリングは、毎月の会議中の議題として行っている。かかりつけ医や看護師は、往診のときにタイムリーな意見をまとめてプランの更新時に盛り込んで、家族に交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態や日々の様子については、ケア記録に記入し、モニタリングを行い、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急を要する場合本人や家族と相談して、通院や必要な機関と連絡、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議を利用して、自治会の人や包括と連携し、地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族と話し合っ、希望に沿ったかかりつけ医となっている。月2回の往診と緊急時24時間対応をはじめ、医療面での安心感をもたらしている。	かかりつけ医を入居時に選べるが殆んどの方が、母体法人に転院される。提携医は24時間連携してくれており、医師や看護師他どの医療従事者とも何でも話し合える関係が構築されている。他の医療機関への通院は原則家族が介助し、訪問歯科は家族と直接契約をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な体調の変化があれば、相談、連絡をしている。看護師から、家族、医師に連絡をとり、的確な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、介護添書の提出や口頭での情報提供を行い、入院中は、職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行っている。必要時には主治医や家族と今後についての検討を行い、状況に応じて施設の入所や医療機関への移行など情報提供も行っている。	入居前に家族には看取りをしない、重度化した場合は、医療機関や施設に紹介する旨を納得して頂いている。重度化となると家族の感情も揺れ動き、その時の状況に合わせて医療機関と連携をしている。年間研修計画で年度内に一度、重度化に関する研修会を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、各ユニットに配置している。職員を対象に救急講習の研修も検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議にて、地域の方からアドバイスを受けたり、自治会の研修に参加している。	年2回の開催で、水害以外の訓練を利用者と一緒に昼夜を想定して行なっている。その際に防災士に参加を呼びかけ、消火器などの取扱指導を受けている。備蓄は普段の食材を使いまわせるように過分仕入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際には許可を得たり、トイレ誘導時に失礼のないような声かけをしたりするなど、1人1人の人格を尊重し、専門職としての接遇ができるよう努めている。	利用者の中には毎日夕方になると「私はここへ来るのが初めてで何も分からないので教えてくださいね」とおっしゃる方がいて、職員はいつも新鮮な気持ちで利用者の言葉と気持ちに寄り添い、利用者にとっての初めての事として、一緒にホームの使い方を教えて差し上げ、納得して頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の状態に合わせて、本人が答えやすく選びやすいように声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の状態に合わせて、その日その時の本人の体調や様子を見ながら本人の希望を尋ねたり相談し、すごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服は選んでもらっている。選べない方についても職員と相談している。散髪も月1回事業所に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は新鮮な旬の物を地域の業者から仕入れている。時には利用者様からのリクエストにも対応して提供している。	毎日届く新鮮食材を見て、利用者から食べたい物を聞き、その日の職員がリクエストに応える形で調理をしているので、あえてメニュー表を用意していない。行事食に工夫を凝らすことはもちろんのこと、毎日利用者は食べたい物をリクエストすることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事は細かく記録してメニューは食事担当者がバランスの良い食事作りに努めている。食事量の少ない方に対しては嗜好に合うものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけにてうがい、歯磨きを行っている。月1回歯科衛生士による口腔指導を受けてアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により、1人1人のパターンを理解し、その人に合った支援を行っている。日中はトイレでの排泄を基本として、夜間は必要に応じた介護方法をとっている。	排泄チェック表を活用して、日々のケアから毎日全員が、リハビリパンツで維持されていた。ポータブルトイレは、安眠を優先すべき方やどうしても必要な方のみ使用している。また紙パンツやパッドを効果的に使うことで排泄機能の維持と改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にヨーグルトやバナナ・キウイを取り入れ、毎日ラジオ体操や運動をする機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人、時間をかけてゆっくり入浴できるように心がけている。入りたがらない方には時間や日にちを変えて、入浴剤を使用するなど声かけや支援を行っている。	季節感や爽快感を感じて頂けるように入浴剤やゆず湯を提供している。ほとんどの方がスムーズに入浴を楽しんで頂けるが、稀に嫌がる方もおられ、そんな時には決して無理強いせず、時間や日にちや職員を変えて、できるだけ気持ちよく入浴して頂く配慮で誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。1人1人の体調や体力に合わせて休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は個別に分けて日勤者が翌日分の用意をして所定の場所におく。誤薬防止をするため、名前・日付、本人確認をし、服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや下膳・机拭きなど、1人1人に合った役割を行っている。趣味や特技、作業ができる機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の状態に合わせて、家族と協力して出かけるようにしている。天気の良い日には近所へ散歩に出かけている。	広い平屋を活かして、家族や見舞いの方が毎週のように来られて、窓越しに交流を深めている。業者の方が毎日のように出入りされることで、外との交流の役割を果たしている。洗濯物を取り込んだり、ベランダで日向ぼっこをしたりして、楽しい日々を過ごしている。また、散歩は日々の日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と外出時に買い物などを行い、支払いをしてもらっている。トラブルを考慮し、入居者様には現金を持たせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談しながら、電話や手紙のやりとりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節ごとの壁画を作り、季節感を出している。各ユニットに3ヶ所トイレを設置して利便性に配慮している。	目に飛び込んできたのは、馴染みの八百屋に導かれた活気のある色彩豊かな新鮮な緑黄色野菜たちだった。管理者が生けたフラワーアレンジメントも目に鮮やかで、一面を賑やかに、長く勤しんで頂くように湿度と空調は一定に保たれ、利用者は思い思いの場所で思い思いのことをして暮らしを営んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に7ソファーを設置している。テーブルの配置は利用者様の希望などにより変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベッドの位置は本人や家族と相談して決めている。来た以前から使っていた馴染みのある物を持ってきて頂くようにしている。	面会者と窓越し交流しやすい平屋で、ベッド、三段ボックス、折りたたみテーブル、ポータブルトイレ、エアコン、カーテンが備え付けられ、利用者は他に馴染みの品を飾り、家族写真や製作物を掲示して、個性を感じる季節を肌と感じさせる心温かい居室に仕上げていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態の変化を把握してより良い環境作りを行うように職員同士で話し合いを行い、安心して生活ができるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200552		
法人名	株式会社KUNPUケア		
事業所名	グループホームみどりの家下の町		
所在地	倉敷市児島下の町7丁目1-39		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 18 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=3390200552-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 1 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様ご家族とのコミュニケーションを大切にして、ともに支え合う関係づくりに努めています。食事は3食とも手作りで提供し、新鮮な素材を使用しているため、大変好評です。また、医療面においても母体が病院のため安心です。利用者様の体調変化があれば必要に応じて、協力医と連携し、安心安全な認知症ケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「徒や疎か」という言葉がピッタリと当てはまる施設である。「徒」とは、まごころがない、はかない、無駄である。それを疎かにしない。管理者二人は、前回の評価で少し異臭がするのではと指摘を真摯に受け止め、「いい加減に扱ってはいけない」、「適当に済ませてはいけない」と、直ぐに、全職員と改善しようと様々に駆使した。また、職員は、「常に笑顔で、みんなに優しく」という理念に合わせて、「決して疎かにしない」と、日々誠実さを貫き、丁寧な介護に促している。利用者の夜間のパーソナルな時間には、心を開き、穏やかに多くを語れるので、本音も出やすくなっていることや、毎日過ごしている利用者が、始めて入所した気持ちで、毎日何度も「よろしくお願ひします」の言葉に職員も同調して、「はじめまして」と言葉を交わし、「毎日がスペシャル」な場を作っている。和やかな集いが一体化した施設だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に職員が目にする事ができるよう、理念を掲示している。また、職員・利用者様が常に優しく接することが出来るように、会議などを行い共有している。	玄関とフロアに法人の理念を掲げて、毎月のフロア会議で周知している。特に、この1年間でホームの中を無臭にしようという取り組みを全員で行い、実現させたことは大きな成果で、まさに理念通りの「笑顔とやさしさ」を更に磨いた結果で自信となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職場体験の受け入れや地域のボランティアの紙芝居の訪問・自治会講座への参加・秋祭りを通じて地域との結びつきを深めている。	毎日、八百屋や魚屋が、旬の食材を事業所まで運んでくださるので、利用者は、職員と商品選びをすることで、地域や馴染みの人達との付き合いを続けている。また通院の時間が絶好のドライブで行き帰りに、窓越しにさくらの花見や風景を目に焼き付けることも大切にしている時間である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや地域の役員と連絡を密にして地域支援についても検討していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に会議を開催している。内容として、事業運営状況の報告・地域の状況や他施設との情報共有を行いながらサービスの向上に努めている。	偶数月に報告文章を郵送するやり方にもすっかり慣れ、メンバーとは年間を通じて電話のやり取りもある。特に高齢者支援センターの方からは、地域の現状を情報提供して頂ける良い機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターや市職員の方も参加して頂き、連絡・報告を行っています。	窓口は管理者とホーム長の2人で主に電話でやり取りをしている。市町村の担当者も同じ顔ぶれであることから、何でも気軽に相談できる関係が構築され、新しい情報は遠慮なしに伝えて頂ける関係が続けられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で研修を行い、職員全員が身体拘束について正しく理解し、身体拘束を行わないようにケアに取り組んでいる。	今年度は、新人2名の職員が入社したということもあり、大いに気が高まり、職員みんなで原点回帰をしながら、身体拘束をしない原則論(身体拘束をせずに行うケア3つの原則と5つの基本ケア)を学び合ってきた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を行い、職員全員に正しく理解してもらおう。言葉の虐待もないように職員同士が互いに注意をし合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修に参加し、必要のある関係者とは相談できる体制を作る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書をもって、利用者・家族には丁寧に時間をかけて説明し、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に投書箱を設置している。家族の面会や運営推進会議を利用して意見を求めている。	離れた家族と縁が遠くならない感覚を得るように、入居に至るまでの間、家族がホームの取り組みについて理解して頂いている。日々の暮らしの不安感を露わにした利用者に対して、家族へ電話をかけ、和やかな雰囲気醸したり、差し入れが届いたりして、ふれあいの大切さを提供している。	内部の事務処理を円滑にして、デジタル化することで利用者と家族に提供してはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議にて意見や要望を聞いている。定期的に個人面談を行う機会も設けている。	毎年1回、ホーム長との面談の他は、普段から管理者が、職員の機微な様子を察知して、言葉をかけたり耳を傾けたりすることから、風通しの良い職場環境が構築されている。そんなホーム内の風土が、誰もが思っている以上に伝え合っている。	外部の方との縁も、デジタル化してはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のため、法人自体が学校を運営し、各自向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内研修を開催し、外部研修についても多くの職員が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加し、職員同士で意見交換や交流を図っている。地域での勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学をして頂き、生活の様子・精神面での不安について把握する。サービス開始時には見守りを強化し、1つ1つ説明をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との情報共有を行い、要望や不安について細かく聞き取り、入居後の様子についても連携を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に話を伺い、事業所だけではなく法人全体を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に作業をしながら、自然と日常会話を交わして関係を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月書類送付時に日頃の様子を記入して郵送している。また、面会時や電話連絡時にも健康状態などをお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族と相談して支援に努めている。以前住まれていた近所の友人が面会に来られる。	建物全体が、平屋だということを生かして、居室から窓越しの面会を支援していることから、面会者も頻繁に来所されている。八百屋や魚屋などの専門業者の方の往来が毎日あるので、馴染みは深まるばかりで、挨拶だけにとどまらないご縁が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と机を同じにするなど、会話ができるように環境を作っている。体操・ゲーム・作業を一緒にを行い、関わり合いを深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族より生活や制度についての相談があれば、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から把握している。困難な場合は、家族から情報提供をして頂き、利用者様本位の意向に努めている。	把握できる方とそうでない方に共通して生活リズムをよく把握することで、必要に応じた先回りケアが可能となっている。入浴タイムや夜勤の時などパーソナルに関わる時間は、利用者の本音も出やすく、普段埃っぽい方でも次第に心を開かれて穏やかになったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの生活の様子を尋ねたり、以前のサービス事業所の人に情報提供を依頼し、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを理解し、行動や動作などを記録し、本人の状態を申し送りなどで全員に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、フロア会議の中で利用者全員について話し合いを行っている。各担当者と計画作成担当者、本人、家族の意見を取り入れて、計画を作成している。	入居時に作ったケアプランは、2ヶ月後に見直し、それ以降は概ね半年ごとで、状態に応じて行っている。モニタリングは、毎月の会議中の議題として行っている。かかりつけ医や看護師は、往診のときにタイムリーな意見をまとめてプランの更新時に盛り込んで、家族に交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態や日々の様子については、ケア記録に記入し、モニタリングを行い、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急を要する場合本人や家族と相談して、通院や必要な機関と連絡、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議を利用して、自治会の人や包括と連携し、地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族と話し合っ、希望に沿ったかかりつけ医となっている。月2回の往診と緊急時24時間対応をはじめ、医療面での安心感をもたらしている。	かかりつけ医を入居時に選べるが殆んどの方が、母体法人に転院される。提携医は24時間連携してくれており、医師や看護師他どの医療従事者とも何でも話し合える関係が構築されている。他の医療機関への通院は原則家族が介助し、訪問歯科は家族と直接契約をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な体調の変化があれば、相談、連絡をしている。看護師から、家族、医師に連絡をとり、的確な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、介護添書の提出や口頭での情報提供を行い、入院中は、職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行っている。必要時には主治医や家族と今後についての検討を行い、状況に応じて施設の入所や医療機関への移行など情報提供も行っている。	入居前に家族には看取りをしない、重度化した場合は、医療機関や施設に紹介する旨を納得して頂いている。重度化となると家族の感情も揺れ動き、その時の状況に合わせて医療機関と連携をしている。年間研修計画で年度内に一度、重度化に関する研修会を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、各ユニットに配置している。職員を対象に救急講習の研修も検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議にて、地域の方からアドバイスを受けたり、自治会の研修に参加している。	年2回の開催で、水害以外の訓練を利用者と一緒に昼夜を想定して行なっている。その際に防災士に参加を呼びかけ、消火器などの取扱指導を受けている。備蓄は普段の食材を使いまわせるように過分仕入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際には許可を得たり、トイレ誘導時に失礼のないような声かけをしたりするなど、1人1人の人格を尊重し、専門職としての接遇ができるよう努めている。	利用者の中には毎日夕方になると「私はここへ来るのが初めてで何も分からないので教えてくださいね」とおっしゃる方がいて、職員はいつも新鮮な気持ちで利用者の言葉と気持ちに寄り添い、利用者にとっての初めての事として、一緒にホームの使い方を教えて差し上げ、納得して頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の状態に合わせて、本人が答えやすく選びやすいように声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の状態に合わせて、その日その時の本人の体調や様子を見ながら本人の希望を尋ねたり相談し、すごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服は選んでもらっている。選べない方についても職員と相談している。散髪も月1回事業所に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は新鮮な旬の物を地域の業者から仕入れている。時には利用者様からのリクエストにも対応して提供している。	毎日届く新鮮食材を見て、利用者から食べたい物を聞き、その日の職員がリクエストに応える形で調理をしているので、あえてメニュー表を用意していない。行事食に工夫を凝らすことはもちろんのこと、毎日利用者は食べたい物をリクエストすることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事は細かく記録してメニューは食事担当者がバランスの良い食事作りに努めている。食事量の少ない方に対しては嗜好に合うものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけにてうがい、歯磨きを行っている。月1回歯科衛生士による口腔指導を受けてアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により、1人1人のパターンを理解し、その人に合った支援を行っている。日中はトイレでの排泄を基本として、夜間は必要に応じた介護方法をとっている。	排泄チェック表を活用して、日々のケアから毎日全員が、リハビリパンツで維持されていた。ポータブルトイレは、安眠を優先すべき方やどうしても必要な方のみ使用している。また紙パンツやパッドを効果的に使うことで排泄機能の維持と改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にヨーグルトやバナナ・キウイを取り入れ、毎日ラジオ体操や運動をする機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人、時間をかけてゆっくり入浴できるように心がけている。入りたがらない方には時間や日にちを変えて、入浴剤を使用するなど声かけや支援を行っている。	季節感や爽快感を感じて頂けるように入浴剤やゆず湯を提供している。ほとんどの方がスムーズに入浴を楽しんで頂けるが、稀に嫌がる方もおられ、そんな時には決して無理強いせず、時間や日にちや職員を変えて、できるだけ気持ちよく入浴して頂く配慮で誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。1人1人の体調や体力に合わせて休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は個別に分けて日勤者が翌日分の用意をして所定の場所におく。誤薬防止をするため、名前・日付、本人確認をし、服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや下膳・机拭きなど、1人1人に合った役割を行っている。趣味や特技、作業ができる機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の状態に合わせて、家族と協力して出かけるようにしている。天気の良い日には近所へ散歩に出かけている。	広い平屋を活かして、家族や見舞いの方が毎週のように来られて、窓越しに交流を深めている。業者の方が毎日のように出入りされることで、外との交流の役割を果たしている。洗濯物を取り込んだり、ベランダで日向ぼっこをしたりして、楽しい日々を過ごしている。また、散歩は日々の日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と外出時に買い物などを行い、支払いをしてもらっている。トラブルを考慮し、入居者様には現金を持たせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談しながら、電話や手紙のやりとりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節ごとの壁画を作り、季節感を出している。各ユニットに3ヶ所トイレを設置して利便性に配慮している。	目に飛び込んできたのは、馴染みの八百屋に導かれた活気のある色彩豊かな新鮮な緑黄色野菜たちだった。管理者が生けたフラワーアレンジメントも目に鮮やかで、一面を賑やかに、長く勤しんで頂くように湿度と空調は一定に保たれ、利用者は思い思いの場所で思い思いのことをして暮らしを営んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に7ソファを設置している。テーブルの配置は利用者様の希望などにより変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベッドの位置は本人や家族と相談して決めている。来た以前から使っていた馴染みのある物を持ってきて頂くようにしている。	面会者と窓越し交流しやすい平屋で、ベッド、三段ボックス、折りたたみテーブル、ポータブルトイレ、エアコン、カーテンが備え付けられ、利用者は他に馴染みの品を飾り、家族写真や製作物を掲示して、個性を感じる季節を肌感じさせる心温かい居室に仕上げていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態の変化を把握してより良い環境作りを行うように職員同士で話し合いを行い、安心して生活ができるように工夫している。		